



未来の学術振興構想について (学術フォーラムの結果報告等)

2024年10月22日

日本学術会議 第三部会員
科学者委員会 学術研究振興分科会 委員長
森田一樹

学術研究振興分科会(25期)について

設置目的:学術研究や研究資金に関する検討を行う。

・25期(令和3年1月28日設置)の3つの課題・審議事項:

- ①重要な学術研究の推進(多額の予算を必要とする研究計画の企画、推進方策)に関する検討
- ②研究資金(科研費・寄付金等)に関する諸問題の検討
- ③研究評価基準に関する問題の整理と課題の抽出

委員長:光石 衛 副委員長:丹下 健

幹事:日比谷潤子、山崎典子

提言:「未来の学術振興構想(2023年版)」(令和5年9月25日発出)

・未来の学術振興構想評価小委員会による募集提案の審査
(会員51名および連携会員21名)

学術研究振興分科会(26期)について

科学者委員会（学術研究振興分科会）				
委員長	森田 一樹	副委員長	山本 晴子	幹事 山崎 典子、早川 誠
主な活動	審議内容			
	25 期に 1. 重要な学術研究の計画に関する検討 2. 研究資金（科研費・寄付金等）に関する諸問題の検討 3. 研究評価基準に関する問題の整理と課題の抽出 を経て公表した提言「未来の学術振興構想（2023 年版）」の周知・普及を行い、国民等の思いやニーズ・関心を把握するための双方向コミュニケーションの充実を図る。			
	意思の表出（※見込み含む）			
	提言「未来の学術振興構想（2023 年版）」の改訂			
	開催シンポジウム等			
	学術フォーラム「未来の学術振興構想 ー実現に向けてー」開催（令和 6 年 10 月 4 日）			
開催状況	第 1 回 学術研究振興分科会 令和 6 年 2 月 28 日			
今後の課題等	25 期に公表した提言のフォローアップを念頭に、アンケート等を通して、今後 20～30 年先を見通す学術振興の「19 のグランドビジョン」とそれを実現するための「学術の中長期研究戦略」の内容を精査し、必要に応じて更新を検討する。			

日本学術会議主催学術フォーラム

未来の学術 振興構想

—— 実現に向けて ——

25 期に発出した提言「未来の学術振興構想（2023 年版）」について、提言の内容を広く社会において共有するとともに、その実現に向けてどのような活動が行われるべきであるか、また、本構想をより豊かにしていくためにどのようなことが考えられるかなどについて、日本学術会議各部の専門家及び外部有識者による議論を行います

令和6年 **10月4日(金)** 13:00～18:00

【開催場所】 日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）

〒106-8555 東京都港区六本木7-22-34

東京メトロ千代田線「乃木坂駅」下車、5番出口より徒歩1分

参加費
無 料

事前参加
申込制

どなたでもご参加
いただけます。

申込方法

▶ 事前申し込みは下記 URL または QR コードから

<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0270.html>

申込メ切：9月27日(金)

日本学術会議講堂での参加は定員になり次第締め切り、超過の際はオンライン参加



プログラム

司会進行：山本 晴子（日本学術会議第二部会員、国立研究開発法人国立循環器病研究センター理事）

13:00 ～ 13:05	開会挨拶	光石 衛（日本学術会議会長／第三部会員、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事、東京大学名誉教授）
未来の学術振興構想（2023）について【提言策定経緯】		
13:05 ～ 13:15	「未来の学術振興構想（2023）」の目指したもの	光石 衛（再掲）
13:15 ～ 13:30	「未来の学術振興構想（2023）」提言策定経緯	山崎 典子（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所教授）
【人文・社会科学関連分野】		
13:30 ～ 13:45	ネットワーク社会における包摂性と多様性の実現	鈴木 基史（日本学術会議第一部会員、京都大学大学院法学研究科教授）
【生命科学関連分野】		
13:45 ～ 14:05	生命科学の新たな展開と創成	石塚 真由美（日本学術会議連携会員、北海道大学大学院獣医学研究院教授）
【理学・工学関連分野】		
14:05 ～ 14:35	自然の探求と技術革新による未来社会の基盤形成	田近 英一（日本学術会議連携会員、東京大学大学院理学系研究科教授）
【分野融合】		
14:35 ～ 15:05	分野融合で拓く学術の未来	岸本 喜久雄（日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授）
休 憩		
日本の学術の現在と未来の学術振興構想		
15:15 ～ 15:40	未来の学術振興構想 ー研究力の視点からー	山口 周（東京大学名誉教授）
15:40 ～ 16:05	日本の学術に求められるこれからの展開 ー協働、多様性、文化ー	渡辺 美代子（日本学術会議連携会員、日本大学常務理事・特定非営利活動法人ウッドデッキ代表理事）
休 憩		
学術研究構想とブランドビジョンの実現に向けた課題		
16:15 ～ 16:40	学術と社会のたゆまぬ前進に向けてー学術振興構想とブランドビジョン実現に向けた課題ー	中村 道治（国立研究開発法人科学技術振興機構名誉理事長、元株式会社日立製作所執行役副社長）
16:40 ～ 17:05	「未来の学術振興構想」を政策の観点から考える	菱山 豊（順天堂大学革新的医療技術開発研究センター特任教授）
17:05 ～ 17:30	我が国の科学技術・イノベーション政策について	山本 正樹（内閣府科学技術・イノベーション推進事務局参事官（総括担当）付参事官補佐）
17:30 ～ 17:50	まとめ・閉会挨拶	森田 一樹（日本学術会議第三部会員、科学者委員会学術研究振興分科会委員長、東京大学大学院工学系研究科マテリアル工学専攻教授）

会 長(25期 学術研究振興分科会委員長)

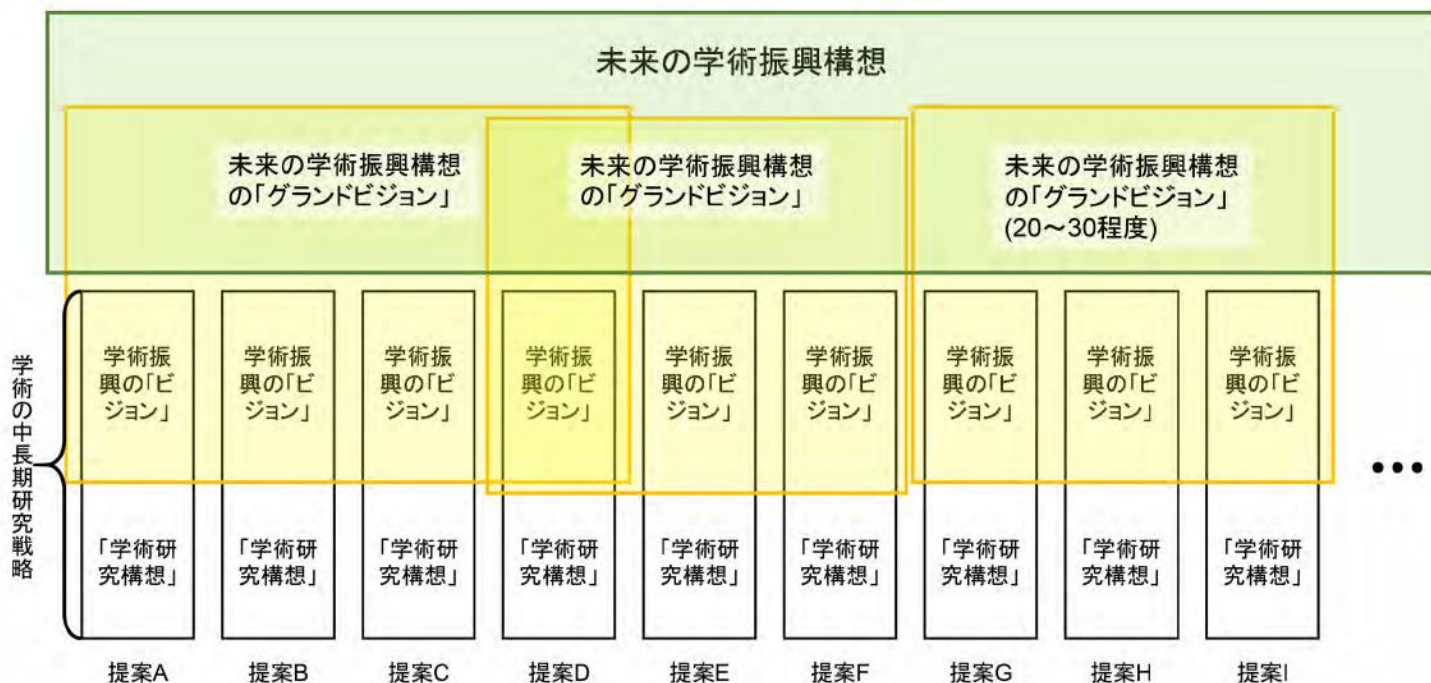
25期/26期 學術研究振興分科会幹事

未来の学術振興構想

理学·工学

人文·社会科学

生命科学



分野別提案件数と グランドビジョン一覧

分 野	提案件数
人文・社会科学	9 (4.6%)
生命科学	17 (8.8%)
理学・工学	78 (40.2%)
分野融合	90 (46.4%)
人文・社会科学と生命科学	2 (1.0%)
人文・社会科学と理学・工学	18 (9.3%)
生命科学と理学・工学	12 (6.2%)
3分野すべて	58 (29.9%)
合 計	194

()内は全体の応募件数の合計に占める割合

No.	グランドビジョン	No.	グランドビジョン
1	言語・コミュニケーション研究の充実を踏まえた現代社会問題のデータ解析による解決策の提示	11	数学・数理科学・量子情報科学が切り拓く未来社会
2	長い時間軸・大きな空間軸・多様な視点からのヒトと社会の科学	12	観測技術革新による地球システムの理解と地球変動予測への展開
3	日本史学を含めた非西洋史学の再構築と国際協働	13	地球規模の環境危機にレジリエントな持続的社会の構築
4	地球の生命環境と食料供給を持続させるための学術創生	14	エネルギーと環境の両立的課題解決
5	生命現象の包括的理解による真のWell-beingの創出	15	持続可能社会に資する革新的な物質・材料の開拓
6	ビッグデータ駆動による生命科学の新たな発展	16	量子ビームを用いた極限世界の解明と人類社会への貢献
7	ヒトの知性を知る、創る、活かすための学術の創生	17	太陽系探査の推進と人類のフロンティア拡大
8	超スマート社会における人の能力拡張とAIとの共生	18	宇宙における天体と生命の誕生・共進化の解明
9	サイバー空間の構築・活用による価値創造	19	自然界の基本法則と宇宙・物質の起源の探求
10	データ基盤と利活用による学術界の再構築		

【人文・社会科学関連分野】

ネットワーク社会における包摂性と多様性の実現

京都大学 法学研究科 教授 鈴木基史（第一部会員）

- ・共通の問題意識：個（個人・文化）の尊重と集団（共同体・学术界）の調和との間の緊張関係
- ・実社会と研究環境の両方で、多様性と包摂性を兼ね備えた健全なネットワーク社会（共生社会）の実現に資する人文・社会科学

No.	グランドビジョン	No.	グランドビジョン
1	言語・コミュニケーション研究の充実を踏まえた現代社会問題のデータ解析による解決策の提示	11	数学・数理科学・量子情報科学が切り拓く未来社会
2	長い時間軸・大きな空間軸・多様な視点からのヒトと社会の科学	12	観測技術革新による地球システムの理解と地球変動予測への展開
3	日本史学を含めた非西洋史学の再構築と国際協働	13	地球規模の環境危機にレジリエントな持続的社会の構築
4	地球の生命環境と食料供給を持続させるための学術創生	14	エネルギーと環境の両立的課題解決
5	生命現象の包括的理解による真のWell-beingの創出	15	持続可能社会に資する革新的な物質・材料の開拓
6	ビッグデータ駆動による生命科学の新たな発展	16	量子ビームを用いた極限世界の解明と人類社会への貢献
7	ヒトの知性を知る、創る、活かすための学術の創生	17	太陽系探査の推進と人類のフロンティア拡大
8	超スマート社会における人の能力拡張とAIとの共生	18	宇宙における天体と生命の誕生・共進化の解明
9	サイバー空間の構築・活用による価値創造	19	自然界の基本法則と宇宙・物質の起源の探求
10	データ基盤と利活用による学术界の再構築		

【生命科学関連分野】

生命科学の新たな展開と創成

北海道大学 獣医学研究院 教授 石塚真由美(連携会員)

- ・地球規模での課題、ヒト／動物／環境を一体としてとらえるコンセプト
- ・AIやビッグデータとの融合
- ・多層な異分野との連携

No.	グランドビジョン	No.	グランドビジョン
1	言語・コミュニケーション研究の充実を踏まえた現代社会問題のデータ解析による解決策の提示	11	数学・数理科学・量子情報科学が切り拓く未来社会
2	長い時間軸・大きな空間軸・多様な視点からのヒトと社会の科学	12	観測技術革新による地球システムの理解と地球変動予測への展開
3	日本史学を含めた非西洋史学の再構築と国際協働	13	地球規模の環境危機にレジリエントな持続的社会の構築
4	地球の生命環境と食料供給を持続させるための学術創生	14	エネルギーと環境の両立的課題解決
5	生命現象の包括的理解による真のWell-beingの創出	15	持続可能社会に資する革新的な物質・材料の開拓
6	ビッグデータ駆動による生命科学の新たな発展	16	量子ビームを用いた極限世界の解明と人類社会への貢献
7	ヒトの知性を知る、創る、活かすための学術の創生	17	太陽系探査の推進と人類のフロンティア拡大
8	超スマート社会における人の能力拡張とAIとの共生	18	宇宙における天体と生命の誕生・共進化の解明
9	サイバー空間の構築・活用による価値創造	19	自然界の基本法則と宇宙・物質の起源の探求
10	データ基盤と利活用による学術界の再構築		

【理学・工学関連分野】

自然の探求と技術革新による未来社会の基盤形成

東京大学 理学系研究科 教授 田近英一（連携会員）

- ・学術の基盤となる基礎科学をベースとした7つのグランドビジョン
- ・技術開発を伴う新たな学術的知見により社会的波及効果が期待

No.	グランドビジョン	No.	グランドビジョン
1	言語・コミュニケーション研究の充実を踏まえた現代社会問題のデータ解析による解決策の提示	11	数学・数理科学・量子情報科学が切り拓く未来社会
2	長い時間軸・大きな空間軸・多様な視点からのヒトと社会の科学	12	観測技術革新による地球システムの理解と地球変動予測への展開
3	日本史学を含めた非西洋史学の再構築と国際協働	13	地球規模の環境危機にレジリエントな持続的社会の構築
4	地球の生命環境と食料供給を持続させるための学術創生	14	エネルギーと環境の両立的課題解決
5	生命現象の包括的理解による真のWell-beingの創出	15	持続可能社会に資する革新的な物質・材料の開拓
6	ビッグデータ駆動による生命科学の新たな発展	16	量子ビームを用いた極限世界の解明と人類社会への貢献
7	ヒトの知性を知る、創る、活かすための学術の創生	17	太陽系探査の推進と人類のフロンティア拡大
8	超スマート社会における人の能力拡張とAIとの共生	18	宇宙における天体と生命の誕生・共進化の解明
9	サイバー空間の構築・活用による価値創造	19	自然界の基本法則と宇宙・物質の起源の探求
10	データ基盤と利活用による学術界の再構築		

【分野融合】

分野融合で拓く学術の未来

東京工業大学 名誉教授 岸本喜久雄（連携会員）

- ・分野融合の意義
- ・AIやSIPを例に見る、定期的な取り纏めの重要性

No.	グランドビジョン	No.	グランドビジョン
1	言語・コミュニケーション研究の充実を踏まえた現代社会問題のデータ解析による解決策の提示	11	数学・数理科学・量子情報科学が切り拓く未来社会
2	長い時間軸・大きな空間軸・多様な視点からのヒトと社会の科学	12	観測技術革新による地球システムの理解と地球変動予測への展開
3	日本史学を含めた非西洋史学の再構築と国際協働	13	地球規模の環境危機にレジリエントな持続的社会の構築
4	地球の生命環境と食料供給を持続させるための学術創生	14	エネルギーと環境の両立的課題解決
5	生命現象の包括的理解による真のWell-beingの創出	15	持続可能社会に資する革新的な物質・材料の開拓
6	ビッグデータ駆動による生命科学の新たな発展	16	量子ビームを用いた極限世界の解明と人類社会への貢献
7	ヒトの知性を知る、創る、活かすための学術の創生	17	太陽系探査の推進と人類のフロンティア拡大
8	超スマート社会における人の能力拡張とAIとの共生	18	宇宙における天体と生命の誕生・共進化の解明
9	サイバー空間の構築・活用による価値創造	19	自然界の基本法則と宇宙・物質の起源の探求
10	データ基盤と利活用による学術界の再構築		

【日本の学術の現在と未来の学術振興構想について】

未来の学術振興構想 —研究力の視点から—

東京大学 名誉教授(24期・25期会員)山口 周

(25期「我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会」委員長)

- ・研究力は量と質のかけ算
- ・我が国の競争力の現状と課題
- ・良き人的研究環境の確保
- ・創造性・独創性を育むための研究支援
- ・形式主義を排除した研究評価の重要性

日本の学術に求められるこれからの展開

—協働、多様性、文化—

日本大学 常務理事(連携会員、24期副会長)渡辺美代子

(NPO法人ウッドデッキ代表理事)

- ・日本学術会議の未来構想とマスタープランの変遷
- ・日本のSDGs達成状況
- ・ジェンダー問題
- ・日本学術会議に対する今後の期待:他機関との協働、多様性の推進、我が国の新しい文化との連携

【学術研究構想とグランドビジョンの実現に向けた課題】

学術と社会のたゆまぬ前進に向けて

—学術振興構想とグランドビジョン実現に向けた課題—

JST名誉理事長、元日立製作所執行役副社長 中村道治

- ・研究力強化に対する学術界の意思表出の重要性
- ・骨太プログラム、ロードマップ、政策立案者への働きかけの重要性
- ・誰にむけて発信し、どのように活用するのか ・5年に1度の見直し

「未来の学術振興構想」を政策の観点から考える

順天堂大学 特任教授(元文科省) 菱山 豊

- ・誰に向けての提言 ・国民にわかりやすい言葉で書くべき
- ・国民や人類へのメリットが説明不足 ・課題解決型が多い
- ・幅広いステークホルダーとの協力が不足しているビジョンがある
- ・キャッチアップ型の説明が多いが日本の強みを強調することも重要
- ・モラルをはじめとした人間の本質に迫るという観点も必要
- ・19のグランドビジョンを繋ぐストーリーが必要

我が国の科学技術・イノベーション政策について

内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局 参事官補佐 山本正樹

- ・「Society 5.0」の実現を目指す第6期基本計画のポイント
- ・統合イノベーション2024推進の方策

・出席者（関係者以外現地参加：39名、最大視聴者192名）

【参加者アンケート（10/16時点）】

回答者数：20名

未来の学術振興構想（2023年版）に対するご意見例：

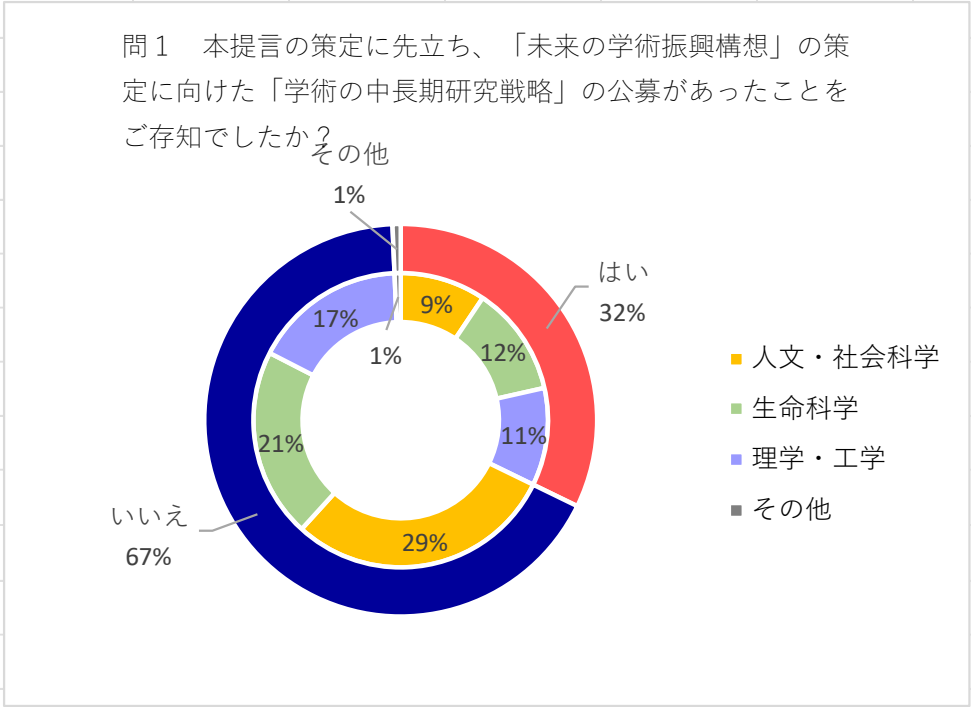
- ・とても重要な取り組み
- ・グランドビジョンの分野間の傾斜
- ・学協会への周知方法の改善
- ・目的と目標の分離による容易な達成度評価
- ・狙いと対象を明確に
- ・グランドビジョンあるいは4分野グループ（人文社会、生命科学、理学工学、融合分野）ごとの会議等を通じた各提案の相互理解の必要性
- ・グランドビジョンの重なりを示す立体的表現の必要性

【学協会に対するアンケート】

有効回答数:149件

問1. 本提言の策定に先立ち、「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」の公募があったことをご存知でしたか？

人文・社会科学	14	
生命科学	18	
理学・工学	16	
はい		48
人文・社会科学	44	
生命科学	31	
理学・工学	25	
いいえ		100
その他	1	
その他		1
合計		149



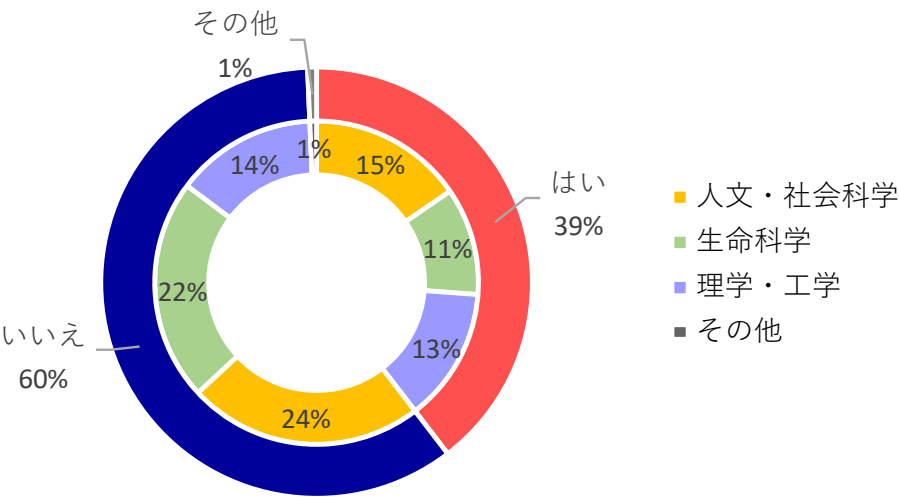
【学協会に対するアンケート】

有効回答数:149件

問2. この提言「未来の学術振興構想（2023 年版）」が発出されたことをご存知でしたか？

人文・社会科学	23	
生命科学	16	
理学・工学	20	
はい		59
人文・社会科学	35	
生命科学	33	
理学・工学	21	
いいえ		89
その他	1	
その他		1
合計		149

問2. この提言「未来の学術振興構想（2023 年版）」が発出されたことをご存知でしたか？



【学協会に対するアンケート】

有効回答数:149件

未来の学術振興構想(2023年版)に対する主な意見:

- ・各関係分野のさらなるグランドビジョンへの盛り込みの必要性
- ・「学術の中長期研究戦略」については、単一学会からではなく、関連学会とともに、より大きなビジョンで提案するのがベター
- ・学術会議会員以外への周知が不十分、認知を広げる重要性
- ・特定の分野のみならず、幅広い研究分野のサポートも重要
- ・学・協会が協働するプロジェクトの構築も必要
- ・将来・未来を見据えた構想の準備は、我が国の学術発展に必須
- ・定期的アップデートも必要
- ・提案者の活動の追跡調査、学術会議での内容紹介機会提供
- ・国際的な協働の視点が少ない
- ・認知度を高め、各省庁や企業が予算付け可能な仕組みの構築
- ・日本学術会議が政府に粘り強く働きかけて欲しい
- ・今後、複数回の案内等、学会に対する周知の工夫
- ・短期的視点「マスタープラン」と長期的視点の「未来の学術振興構想」の両立

【26期 学術研究振興構想分科会の活動方針案】

○2023年版提言のフォローアップ

提言の意義・対象に関する疑問への明確なメッセージ
提言の周知のための方策

○2023年版提言の改訂(2026年版の策定)

アンケート等による意見集約

提言策定プロセスの検証（ボトムアップのみでよいか？）

2023年版各グランドビジョンごとの検討

今後改訂の方針についての検討

（既存提案の改訂と新規提案を分けて募集等）

2025年春頃改訂公募開始を目指す